

羽ばたこう 立志の丘から



平成30年2月26日

No.37

冬季卓球大会続く

2月12日には、美郷町総合体育館リリオスで、大曲仙北の中学校の卓球大会があり、本校はAチームとBチームが団体戦に出場し、予選リーグ後の決勝トーナメントでは、Bチームが1勝をあげました。

また、2月24日には、県立体育館で秋田県総合卓球選手権大会（第3部）に、1・2年生の卓球部員のうち希望した10名が出場しました。冬にも鍛える卓球部です。ファイト！！

通学路の安全確保について

比較的穏やかな年明けとっておりましたが、冬休み後から2月にかけては、豪雪、吹雪となり、皆様たいへんご難儀したことと思います。学校周辺の除雪にも校務員の佐々木さんにたいへん頑張ってもらっています。また、玄関の除雪には、生徒も登校後、自分たちの学校ということでボランティア活動として取り組んでくれています。

また、至る所で雪壁ができ、通学路の安全確保も重要課題です。特に、本校下の市道から国道13号線バイパスの合流地点は、見通しが悪くなっておりまして。市教育委員会を通じて国土交通省湯沢河川国道事務所大曲国道維持出張所に依頼したところ、即時対応をしていただき、雪壁が取り除かれました。ありがとうございます。



なお、生徒の通学路で危険箇所等がある場合は、学校にお知らせください。

美術の時間展 開催！

回を重ねてきている本校生徒作品による「美術の時間展」が2月27日から3月20日まで、大曲中通りの「アート&ギャラリーカフェ カサブランカ」様において開催されています。今回のテーマは「はじまりは一冊のスケッチブック」です。時間のある方はぜひご覧ください。

2月には、北海道の北翔大学の山崎教授が、3年生の美術の授業を参観に来てくださいました。3年生の「15歳の存在証明」という作品は、これまでの卒業生も取り組んできた題材ですが、自分をその素材も含めて様々な表現で表す作品です。

山崎先生は、3年生の作品自体のすばらしさはもちろんのこと、授業への集中力、また、その作品に込められた自分の想いを語る3年生の姿をたいへん褒めてくれました。

何よりも、本校生徒の登校風景や来校者に対する自然なあいさつ、学校全体のもつ温かい雰囲気、学校全体がすばらしいと、何度も何度も褒めていただきました。こちらにも思わずうれしくなりました。



ところで、次は3年生のある生徒の美術の時間に対する感想です。

Q：あなたにとって「美術の時間」はどんな時間でしたか？

A：自分の感受性を広げられる時間、自分を真に受けて認められる・受け入れられる時間、新しい自分と出会えた時間。

Q：美術でどんな力が身に付き、どんなことを大切にしてきましたか。学んだことをどのように生かしていきますか。

A：美術を鑑賞する時には多様な見方・視点・感覚・感情を持ち寄り、伝わってくる作品の力を素直に受け入れることが大切だと思った。また、たくさんの作品・作家を通して自分の多様性が成長したと感じた。西仙北中学校の美術と出会う前の私は、自分の固定概念に囚われていたが、出会った後はそれがごとく崩れた。でも、それは不快ではなく、新しい自分に出会えた気がして嬉しい気持ち、愛おしい気持ちにもなった。これからも様々な分野でも美術を通して学んだ精神を大事にして、たくさんの方を自分に学ばせたいと思う。いや、自ら学びにいきたいと思う。

本校美術科がテーマに掲げる「想像力は未来を創る力だ」、生徒に生きる力を身に付けさせたい。どの教科等でも身に付けさせなければならない。そんな願いを現実にする一つの実践と考えます。



校内授業研究会(一人一研究)

本校では、校内研究会として、教員の一人一研究を行っておりますが、15日は、技術科の高田先生が、2年B組の技術科の授業を提示してくれました。「プログラムによる計測・制御 ～センサーカーのプログラム～」という題材で、プログラムの機能や処理の手順について関心をもたせる授業



でした。特に、当日は「くり返し型プログラム」ということで、生徒は課題克服に臨んでいました。

3人グループで考えをまとめ、プログラミングの試行錯誤を、実際にそれこそ繰り返していました。ほとんどのグループが二つ目の課題まで克服するとともに、振り返りでは、「くり返し」命令を使うと便利だということを実感していました。

小学校の新学習指導要領では、プログラミング教育も注目されていますが、本日の授業は、まさしくその考え方が実践された授業のように思いました。

また、22日には、池田先生が同じ2年B組において、理科の研究授業を行ってくれました。「電流の性質」という単元で、電熱線とワット数の関係を調べる実験をもとに、科学的な思考・表現をねらいとした授業でした。

日常生活にある商品のワット数の違いと加熱時間に着目して、ワット数と水の温まり方について予想を立て、時間や水量、電圧などの条件整備をして実験を行っていました。そして、実験結果から考察をして結論を導き出していました。個人の考えをしっかりとってグループ討議をしていた点がすばしかったです。指導者としては、安全への注意は繰り返しながらも、実験や考察には、じっくりと向き合わせるように配慮したいと考えます。2年B組の皆さんの授業姿勢もたいへん立派でした。一つだけ言葉遣いは心遣いです。考えてみてください。



子どもと家族の健全育成ペア標語入賞

大仙地区少年保護育成委員会や市民会議、大仙警察署等が主催する「第18回子どもと家族の健全育成ペア標語」のコンクールにおいて、本校2年生の高橋さん親子が、中学校の部で優良賞に輝

きました。おめでとうございます。

本校でも沢山の応募をした、子どもたちの健全育成をねらいとするペア標語ですが、高橋さん親子の作品は、優秀賞1次に次ぐ優良賞でした。23日には、大曲プラザたつみにおいて、入賞作品の披露と表彰が行われました。

高橋さん親子の作品

「さわやかな みんなの挨拶 こだまする」

「響き合う 挨拶で広がる 笑顔の和」

大綱引きのすてきな出会い

(写真いただきました)

写研春日井写真展のメンバーの安達様から、生徒の写真をいただきました。ありがとうございました。安達様はメンバーと共に、名古屋から二泊三日で秋田県を訪れ、なまはげ祭りや川を渡る梵天、そして刈和野の大綱引きを撮影旅行していたそうです。

大綱引きの当日、綱のぼしや小綱付けに参加していた本校生徒を撮影した際、赤い手袋の女子生徒からはおいしいお饅頭もいただき、心優しい生徒たちとっておくださったようです。その時のお礼として、撮影した写真を学校宛にお手紙と共に沢山送っていただきました。

生徒たちに、すてきな出会いの記念として渡しました。安達様、本当にありがとうございました。また、ぜひ、秋田に、西仙北にお出でください。お待ちしております。心温まる出会いもあった大綱引き余録でした。



今年度最後の期末テスト

2月23日、今年度最後の期末テストが行われました。3年生にとっては、高校入試を除くと、中学校生活最後のテストでもあります。1・2年生は、それぞれの学年を締めくくるテストであり、部活動休止期間も含め、復習等を重ねて臨んだテストです。



今年一年の学習の成果を確かめるとともに、3年生は新しい世界への飛躍の基盤として、また、1・2年生はそれぞれ進む学年の基礎として、これまでのテストを振り返ってほしいと思います。

豪雪もようやく終息かと思えます。春は確実に近づいてきています。心も体も大きく伸ばして、夢や希望に向かって GO!